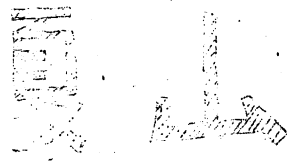


昭和 41 年 (1966 年)



縦走合宿報告書

South Alps

正ちゃん party

信州大学山岳会
長野山岳部

1. 目的

体カ養成・リーダーシップ・メンバーシップの養成

2. 場所

南アルプス 甲斐駒ヶ岳-北岳-聖岳

3. 合宿期日

7月23日 ~ 8月3日 (12日間)

4. 構成

C. L.	藤本正二
S. L.	吉安尚夫
食料	吉安尚夫
	岸下晴亮
装備	金子鉄男
	岡本且造
気象	吉安尚夫
	池内寛幸
会計	吉野英夫
記録	吉安尚夫
	金子鉄男
医療	岡本且造

夏山合宿を終えて

皆、ほんとうに良く頑張った。アサヨ峰の前の猛夏や、大樺沢の大雪渓の登り、農鳥から池の沢池まで等……
何という深き印象となったことであろう。一年生はこの合宿を通じて今後の自己を見つめることだろうし、二年生は、来年は三年生としてあらゆる困難に立ち向ってゆく糧^{かた}を貯めえたことを思う。そしてこの合宿で得たことが、たとえ一つであろうとも今後の学生生活に役立ててゆくものがあつたなら、もちろん例外もあるだろうが、強さ自信となると思う。

比較的既知のコースがあつたが、やはり南アルプスの大きさが感ぜられた。先頭に立たせ、未知の尾根や未知の沢を、あの荷を背負つて行つたらすばらしいだろうと思う。だから、来年は三年生が中心になり、新しき南アルプス、新しき夏山合宿、新しきパイオニアワークを持つた縦走合宿が望まれる。さらに日本第一の高峰北岳の冬山を考えるに進んでもらいたい。

ただ、この合宿のリーダーとして僕はあまりにも若く未熟であつたことを深く他^{わが}がたいと思ひます。これから

精進に精進を重ね、山の真の良さを求めたいを望みます。

一年生諸君へ＝ 過去の自分を振り返って、自分がどうしていけば良いのかを真陰に考えて努力してほしい。それは、日常の生活においても適応され、専門・学問・分野にもその目を向けることだと良う。

二年生諸君へ＝ 小へ行ったら二年生、下界へ行ったら一年生。これじゃあ困ったものである。一年生を尊んで行くのが二年生であり、二年生を尊んで行くのが三年生であると思う。私的な理由があると思うが、自らを鍛錬し、心の上に基づく使命感が何であるかを自覚し、行動に移して欲しい。

C. L. 藤本

行動記録

《オコトワリ》 合宿前半の記録を紛失してしまっていたので、記憶をたどり書き直す。

(第1日) 7月23日 (土)

松本駅発 8:30ごろ 途中塩尻の釜めしがうまい。伊那北に着くがバスなし、1時30分まで待ちぼうけ、戸台には3:00ごろ着。1泊して行った河原で泊る。一年生、全て始めて、胸さわぎ。

(第2日) 7月24日 (日)

戸台川をつめる。北沢峠までの苦しい登り。北沢小屋より少し上部-仙水峠より一テン場。54k ガックで仙丈岳往復する。小仙丈岳頂上で大休止。すばらしい昼寝だった。この日は、本当に疲れた。

(第3日) 7月25日 (月)

いよいよ水場の有りコース、仙水峠より、駒ヶ岳往復す。皆元気だった。アサヨ峰の登り、苦しい。本当に苦しい。途中アサヨ峰の下にテ泊する。何とか広河原小屋のテニ場につく。

(第4日) 7月26日 (火)

きのうのテ泊を取りに行き、きのうの半分の時間で終る。広河原峠を通り、広河原に下る。800mの下り。下り終った所の河原にテニ場。この夜 パイナップルを食べる。星が見える。周りの山にて小さくされた夜空、神秘的だった。
<Yoshino>香

(第5日) 7月27日 ① 夕方 ② 強

広河原 ~ 白根御池小屋
2:00 エッセン起床
3:00 朝食
4:20 出発 (4:30 出発予定)

- 4:50 広河原小屋
- 5:00) 1本
- 5:10) 1本
- 6:10) 1本
- 6:30) 1本
- 7:40 白根御池小屋
- 9:15 御池テンバ出発
- 9:50) 大樺沢テンバ上部 1本
- 10:05) 大樺沢テンバ上部 1本
- 10:45) 八本歯コル下部の二股
- 11:05) 八本歯コル下部の二股
- 11:40) 八本歯コル
- 12:00) 八本歯コル
- 12:25) テボ地点 (北方稜線小屋25分前)
- 12:45) テボ地点 (北方稜線小屋25分前)
- 1:00) 北岳ピーク
- 1:50) 北岳ピーク
- 2:05 肩の小屋
- 2:40 御池のテン場

大樺沢を、つめる予定が分岐点(御池方面との)で、大樺沢は、ピニ
 ッケル、アイゼン必要とあり急に御池小屋に追いつく。コースに
 の登りは少々キツく、稜線小屋近くまで荷上げする。帰りに
 の行動を考慮、草すき、大樺沢をグリーセードで楽しんで帰
 郎たなら、大樺沢をグリーセードで楽しんで帰る。帰りに
 夕方の雨、あせったねえ。

(第6日) 7月28日 ①

- 白根御池小屋 ~ 池の沢
- 2:40 エッセン起床
- 4:15 朝食
- 5:40 出発 (5:00 出発予定)
- 6:30) 大樺沢テン場上部
- 6:40) 大樺沢テン場上部
- 7:00 ~ 7:10 コル下の二股で水を補給

7:50 ハ本歯コウ
 8:15)テホ 地点 Xシ
 9:05 北方稜線小屋
 9:35)1本
 10:05)間の岳
 11:10)農鳥小屋
 11:45)西農鳥岳前のピーク
 12:25 農鳥岳
 12:40)大門沢への分岐より少し行っ Eところ
 1:30)広河内岳 (天気図作成)
 2:00)池の沢の池 (テント)

1年生は木の棒をもたせ大樺沢をつめる、昨日のテホ地からはぐっと荷が重くなるも、間の岳までは快調、農鳥から池の沢までは少しごかれる。広河内の下りは、道をき道をテテと下降、昨日は半沈なそうなる、静かな池のほとりで、一年生は何を考えているのだろうか?

7月29日 (第7日目) ①⑥①

池の沢 ~ 雪投沢
 5:00 エッセニ起床
 6:00 朝食
 8:00 出発
 9:15)大井川東候
 9:35)Xシ
 10:25)Xシ
 10:45)Xシ
 12:00 テン場 (雪投沢上部)

沢の音しか聞えなからテン場で8:00より各自自由、大井川の渡渉もなく、雪投沢はガラ場をポーン、稜線分岐点より

7月31日 (9日目) ガス時々々 風強し

沈殿

3:30 エッセニ起床
 4:30 朝食
 5:00 岸下と金子で テポを取りに行く
 7:00 帰天

昨日テポした所が、金子と岸下で取りに行く、あとは天気悪く沈。一日中寝る者、歌を唄うもの。外の天気さえ良ければ最高な将。

8月1日 (第10日目) ①

高山裏へ

百間洞
 1:15 エッセニ起床
 2:15 朝食
 3:40 出発 (3:30出発予定)
 4:35) 1本
 4:50)
 5:45) 荒川岳小屋分岐点
 6:00)
 6:27 荒川小屋
 6:40)
 6:50) 大聖寺平
 8:25) 赤石岳
 9:00)
 9:45) 百間平
 9:55)
 10:15) 百間洞露管地
 10:20)
 11:40) 大沢岳下部
 12:20)
 12:50 百間洞露管地

昨日の沈で、予備日を2日費し、今日は2日分を行動する予定で、聖平目まで出発。赤石岳の登り、大沢岳の登りど、K疲れ、百間洞露管地へ引き返す。2日分の行動は確かにき

ついでと思うが、何故テン場をすぎたあと、すぐに疲れが出て
 動けなくなるのか？ 赤石岳で、下大のpartyと会う。品が
 なりゆえ、入山10日は目になるが、いつまでも行動が遅い。
 やっ、マやろうという気力をもって頂きたい。

8月2日 (第11日目) ①

百間洞 ~ 西沢渡
 3:00 エッセニ起床
 4:20 朝食
 5:15 出発 (5:00出発予定)
 6:10) 大沢岳
 6:25) 中盛丸山
 6:45) 免岳
 7:40) 免岳と聖岳の鞍部
 7:45) 前聖岳
 8:00) 前聖岳
 9:20) 前聖岳
 9:25) 前聖岳
 9:33) 奥聖岳
 10:25) 前聖岳
 10:35) 前聖岳
 10:40) 前聖岳
 11:00) 聖平の上部 (最初のテント場)
 11:10) 聖平と西沢渡の分岐点
 11:30) 聖平と西沢渡の分岐点
 12:10) 一本
 12:20) 一本
 1:15 西沢渡

夕日であんなに実際の行動は終り、予定では、先岳まで行く計画だか
 体カ、身カ等を考慮して無理と判断して、下山する事に決定。
 皆一生懸命やってくれた。西沢渡で打ち上げ、飯場からビー
 真夏の太陽下で全負元気に一杯、うまいねえ。テント
 ルギース仕入れてきてグッーと一杯、うまいねえ。テント
 内は気分の一年生で百領これ、上級生は月光が輝く外で
 安らかな眠りに。

8月3日 (第1日目)

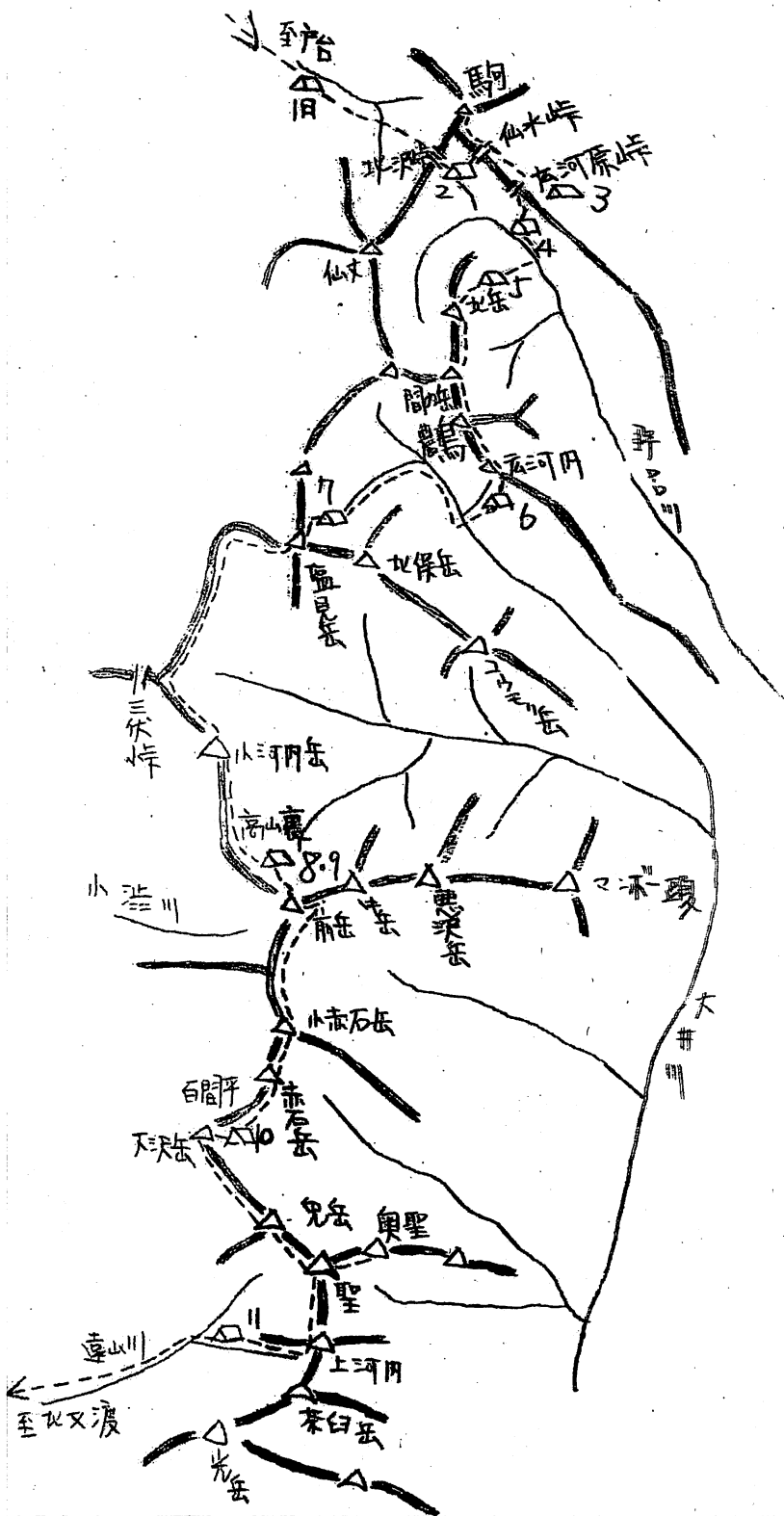
◎後●

西天渡 ~	長野
4:00	エッセニ起床
4:40	朝食
6:00	出発
7:00) 易老渡
7:05	
8:05) 北又渡
8:35	
9:30) 續沢
9:40	
10:25	梨元着
11:04	出発

長かった縦走のことを思い出し、軌道の上をふんたんと歩く
梨元へ着いた時の顔……顔

本当に御苦労様でした。

正古心ハ一三ノ一



- テニ場代
玄河原小屋 各1人 20円
- 御池 小屋 各1人 20円
- 百間洞 各1帳 300円

その他北沢小屋、聖平町等、在百間洞はていど11にする
と200円に値下げしてくれる。

会計報告 正ちゃんパーティー

I. 収入

(1人) 3000 x 7 = 21000

3000: 合宿費

II. 支出

essen 費	16629
装備 "	1050
遭対 "	700
医療 "	300
テニ場 "	480
合計	19159

<内訳>

essen

パン	4050
米	2500
以米	420
魚カ	7339
アカサ(肉)	1485
仁科	55
アメ	400
野菜	380
小計	16629

・装備

天気図	80
ガソリン	150
アルム(2)	360
電池	120
ローソク	200
針金	20
アサヒ毛(2)	120
小計	1050

・遭対費

100 x 7 = 700
(1人)

・医療 300円

・テニ場代

玄河原小屋	40
御池 "	140
百間洞	200
小計	480

気象係

池内

1. 夏山の典型的な気象変化

① 梅雨

発達したオホーツク海高気圧と小笠原高気圧とが衝突して梅雨前線をつくり、その上に低気圧が来ると、5月下旬又は6月上旬から7月中旬まで続く。

◎ 梅雨前線

梅雨前線は停滞前線の一種で、長い間本邦の東側に停滞し、雨、曇り、曇りの天をつくります。300km以内は曇り、700km以内は曇りの天をつくります。

(A) 入梅

オホーツク海気団が強く、前線は南の方へ進みます。日本海側は比較的曇り、日本側は比較的曇り、日本側は比較的曇り。

(B) 梅雨の最盛期

6月末から7月上旬にかけて前線は北上し、その上に低気圧が来ると、多量の雨を降らせる。低気圧は2-3日ごとに発生、速度は遅い。

(C) 梅雨の中休み

6月20日前後に多く、長続きしない。

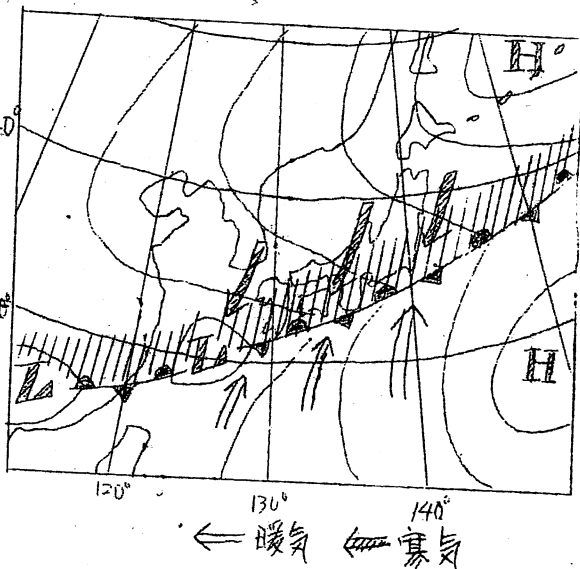
(イ) 前線が北上しすぎて日本海に入り、一時的に真夏となり晴れておし暑い。

(ロ) 前線が南に押し下げられて、西方から移動性高気圧が来た場合。

(D) 梅雨明け

(イ) オホーツク気団が、衰退し、本邦が小笠原気団の圏内に入る。急激にカラリと晴れて夏になる。

(ロ) オホーツク気団が東北東の海上に根を下し、前線が南に押し下げられて、涼しくなる場合、いわゆる夏口向きの気温もたいては高くなる。



反省

夏山合宿反省と雑感

岸下

山 ときと時たて頭思りあはる感水華たあな
 の。大いのを何のとかち感か望わもつきや
 あうに引あ首は俺にば打足な絶思の思でじ
 思申え。も俺もいと。其も。にたとら道
 今この考を信。後でいたのでもうっくろ
 とう頭、っ自。山んたっ中りす持りいさ
 っのうかなた下ニ寝だの存対たをなは生
 だ俺下わかいい、ぎでけ労がにり問ヤのの
 くるでれがずてもさエゴ疲じさて疑も俺
 近来容忘とわったふのたい感なめう要る
 月出印もこの残中に畳ぎ軽しい言必け
 カがい度くんが行う。す。快がをともかる。属ば乗で迫をだ根すに如は。絶
 三方強何いほみ山もい。が存のふ分かしをきい所遊か由くさ実・省力の宿す余
 見位もてたのが憂た教うあの部の少春住てにまと理存な事力反斗兵合ら
 がなぬ度った感えかり日よう分存なに青のめ部す何う救のは身く一残。まは
 だ観れ何なあ考考何癖ののい自きま活の青さ狂の言容性事の深、敗たいと
 け観忘。くき劣存もく日行と。大好住俺が慰山ニリとは根た俺、かたいと
 わ客てる強礎はんつ早余山。てのがのにけをが、入た部。しはしなれ歩に
 くりしいトでトにり日。だしも山俺外だ分兄しい岳力と肩るさかまけ直
 書をとてが間と。す十もん増たはて以る自。る部てム気う結あいし。だち
 をかうい五年あうりたにつたも俺ん山登之時あ岳っ学。ろ。で暑ひまきた立
 省。よかの三。う回を問いえにいって存。にっのと山入大さやだ事のち泣けら
 反てれをり校れだりだる。終水とし山だ山思年ろでに、なて事のあ打てつか
 のし忘ぢ。高ずん走た。いもりも感た。実もう一い由代に。いっの然く、れえ態
 山対はぐがのくなを。て時や。等はし事何と校う理時俺がなけ当のらわ植林
 夏に宿あた俺てめ半。っのはが劣。だも。高。が変高きの命たごくとなを感の
 行合くし。てだのう思げれた。る笑のる。い。

夏合宿感想

岡本旦造

僕自身にとって夏の縦走は山岳部に入ってからの新入合宿よりも強烈な印象を与えた。合宿に入る前はとてモイヤリ気分、山に行く事が楽しいはずなのに、おさえつけられた様な気分でした。でも合宿の日数が進むにしたがって、だんだんとその気分も少しずつゆきまわした。三ヶ月前の合宿は、今、僕の頭の中とは断片的にしか浮かんできません。真夏の太陽にガンガン照らされ、半バテ状態でブラリブラリと歩いた早川屋根の事、処女の泉での静けさ、雪投沢での半沈の事等色々の事がうかんできます。確かに夏合宿はとてモ苦しかったです。でも合宿から僕自信が学んだ事、得た事はとてモ大きIIと思えます。今は何が何があるか、わかりませんが、でも何か十に一つくらいあると思えます。これからの山行をただムに「秘生」につけ行くというのではなく、自分自身をしっかりと持った山行をやりたいII思っています。

— 編集後記 —

何分一年生だけのもので、うろこ
でうろこからとてモ思っています。

1966年・10月～11月にかけて
作成

